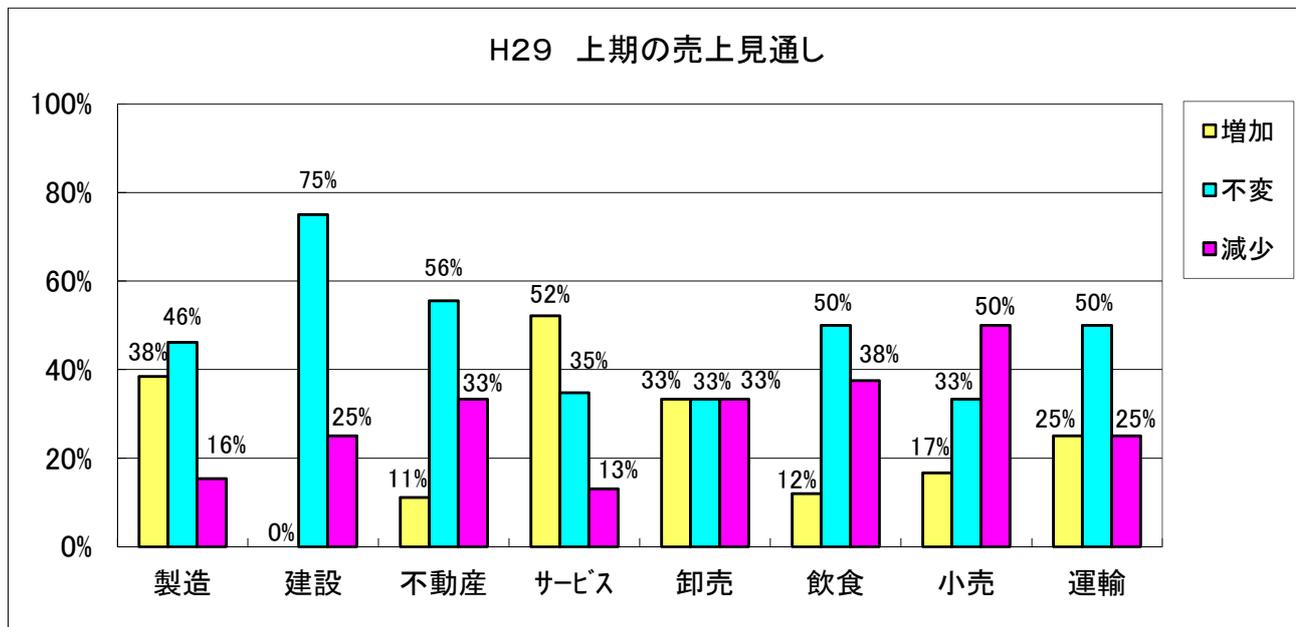


調査2 平成28年7月～12月を基準とした平成29年1月～6月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

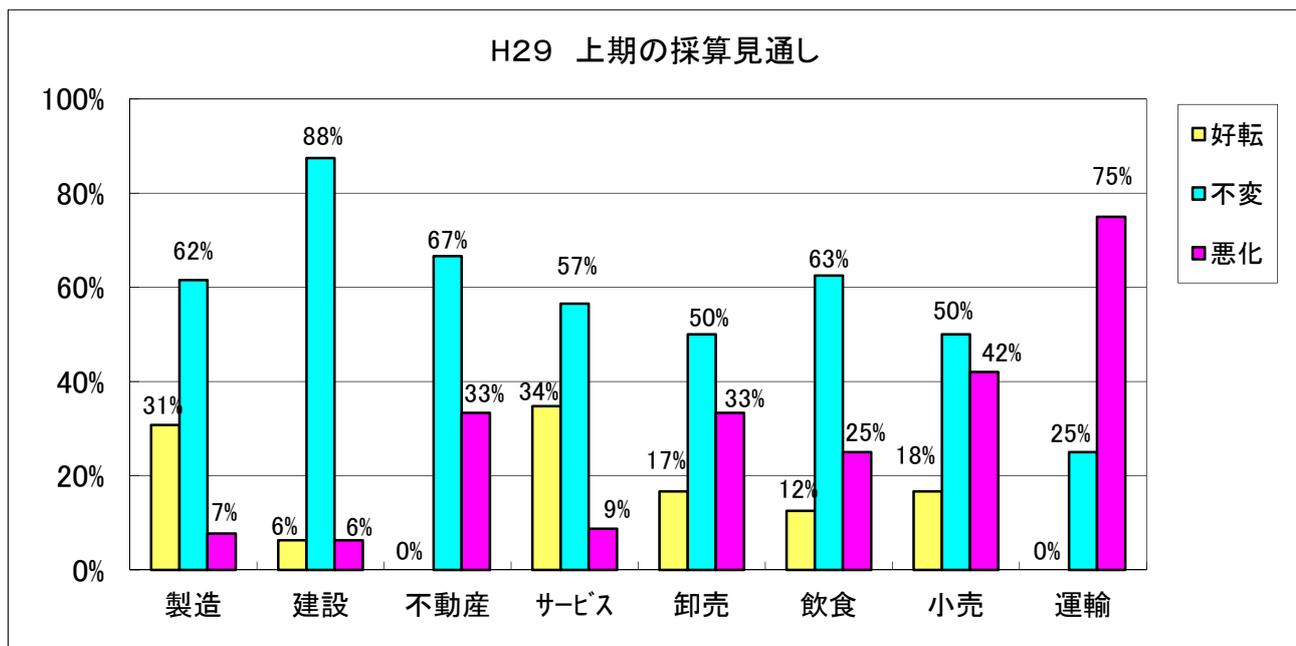
①売上見通し

全体で見ると「増加」25%（前回25%）、「減少」28%（前回32%）と厳しい見通しとなっている。業種別で見ると「増加」する見通しが多かった業種は、サービス業（52%）。一方、「減少」する見通しなのが小売業（50%）、飲食業（38%）であった。



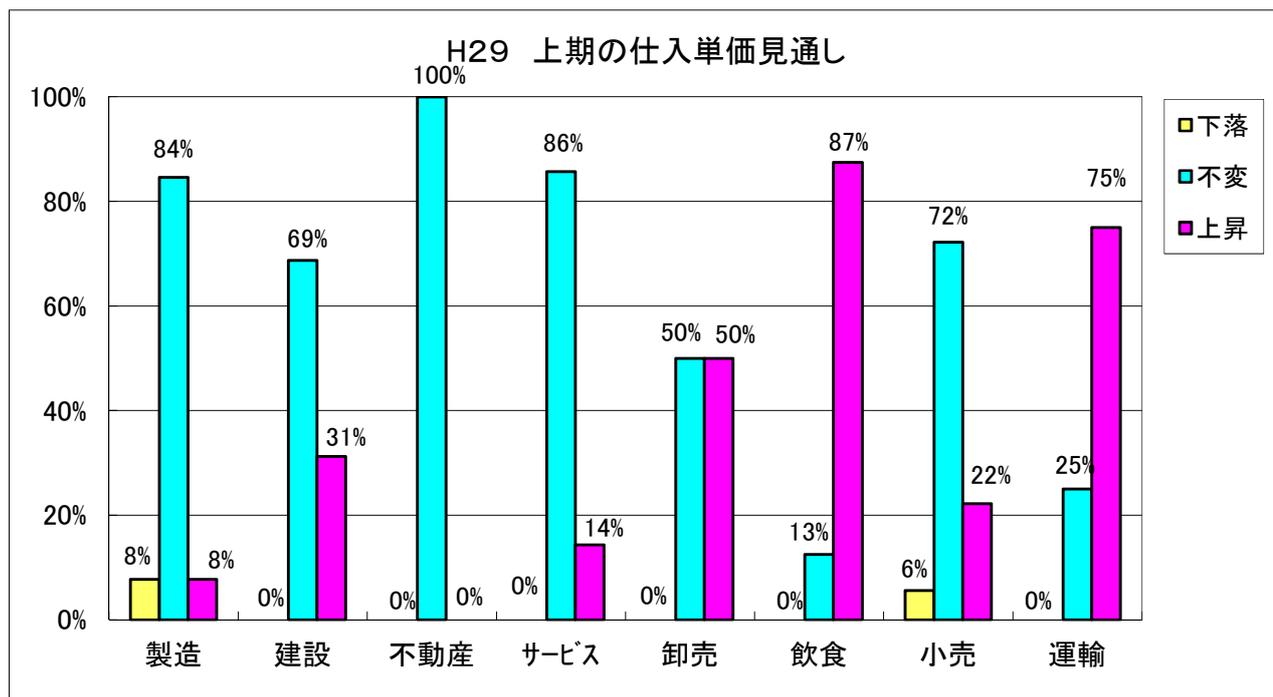
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が19%（前回15%）、「不変」が60%（前回51%）、「悪化」が21%（前回34%）と悪化傾向が強い。業種では、サービス業の「好転」（35%）がもっとも多かった。「悪化」の見通しが高いのが運輸業（75%）・小売業（42%）であった。



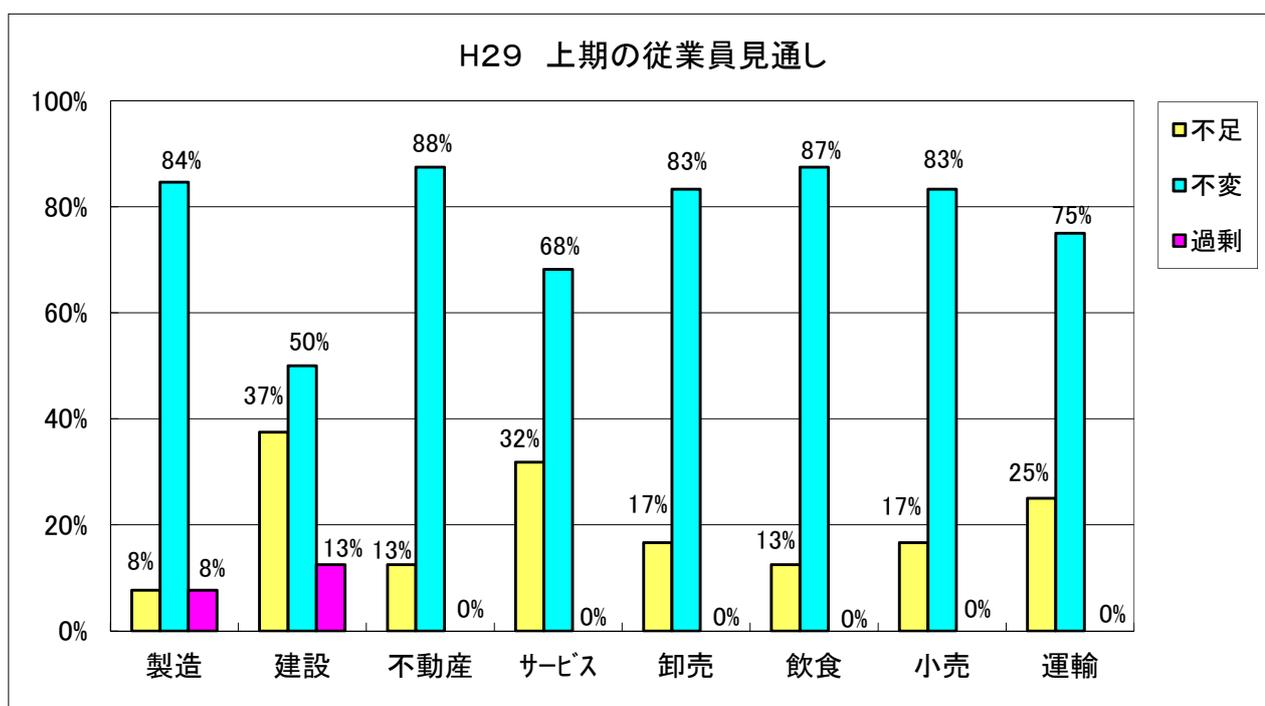
### ③仕入単価の見通し

仕入単価については、飲食業87%（前回67%）、運輸業75%（前回17%）と「上昇」の回答が突出して多かった。その他の業種ではほとんど「不変」との回答であった。



### ④従業員の見通し

全体的には、「不変」が76%と多く、業種別でみると「不足」との見通しなのが、建設業37%（前回調査37%）、サービス業32%、（前回調査19%）で深刻な状況である。

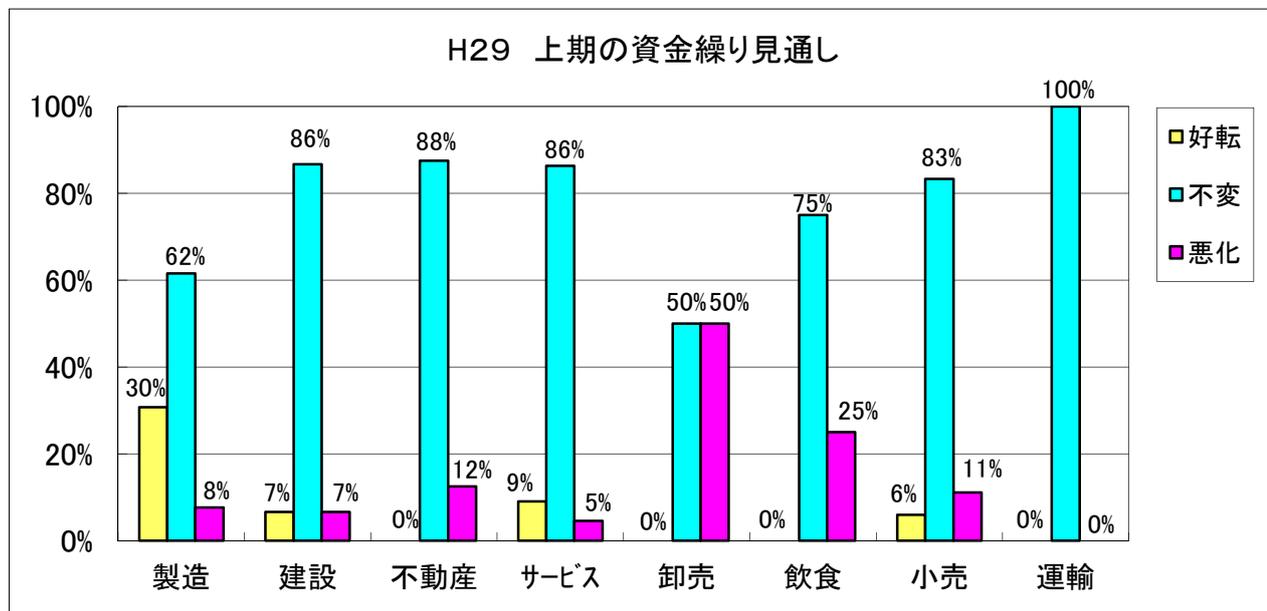


### ⑤業界の景気動向見通しについて

P5～6を参照。

### ⑥資金繰りの見通し

全体的に「不変」が多い中、「悪化」が多かったのが、卸売業50%（前回17%）であった。一方、「好転」が多かったのが製造業30%（前回0%）であった。



### ⑦金融機関の融資状況見通し

全体的には「不変」(57%)が多く、続いて「融資無し」(27%)、「緩やか」(10%)、「厳しい」(6%)となっている。前回の調査結果とほぼ同様で融資状況については大きな変化は見られなかった。

